

平成16年度 大学史展示室常設展

校舎のうつりかわり

— 90年ぶりの里帰り —

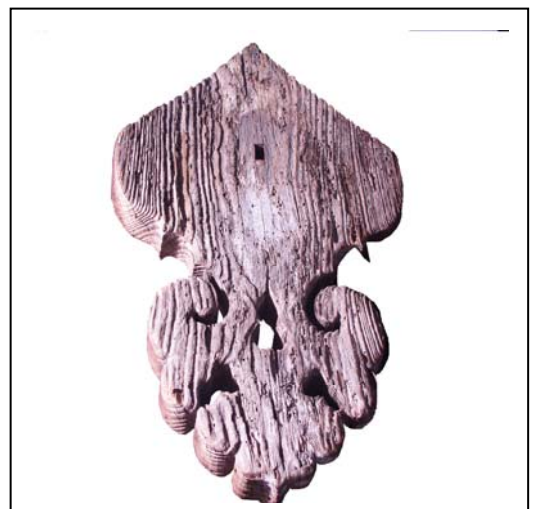
会 期 平成16(2004)年5月14日(金)~21日(金)
会 場 禅文化歴史博物館2階 大学史資料室
主 幹 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

駒澤大学の前身、曹洞宗大學林専門本校の入り口には、木造の重厚な山門がありました。この門は、のちに滋賀県彦根市の清涼寺の山門として移築されました。近年、この清涼寺の山門が解体され、平成16(2004)年3月、山門の「懸魚」が当館に寄贈されました。

このように、約90年ぶりに曹洞宗大学専門本校時代の遺品が里帰りしました。今回、平成16年度大学史展示室の常設展「校舎のうつりかわり」と題し、この山門の懸魚、いまはなき駒澤大学のシンボルであった「旧本館」に関する資料を公開します。あわせて、現在の駒澤大学の駒沢・深沢・玉川の3キャンパスにある建物を紹介します。この展示を通して、駒澤大学の歴史に新たな一面を発見していただければ幸いに存じます。



開校20周年記念式典当時の山門
(明治35(1902)年/本学図書館蔵)



寄贈された懸魚(けぎょ)

I 曹洞宗大学林の山門

麻布区北日ヶ窪町（現港区六本木）に開校した曹洞宗大学林専門本校の入り口には、木造の山門がありました。

この山門は、明治 22（1889）年に刊行された『新撰東京名所図会』にも描かれるなど、東京の名所のひとつとして紹介されています。

のちに、滋賀県彦根市の清涼寺に移築されましたが、近年解体されました。

このたび、平成 16（2004）年 3 月にこの山門の懸魚が当館に寄贈されました。

【展示資料】

- No. 1 曹洞宗大学林専門本校山門の懸魚
- No. 2 清涼寺に移築された曹洞宗大学林専門本校の山門（昭和 57(1982)年頃 撮影）

II 思い出の旧本館

現在の本部棟・記念講堂の場所には「旧本館」がありました。

この本館は、昭和 12（1937）年に建設されたコンクリート 2 階建ての建物で、その建設費は 8 万 7, 900 円でした。

昭和 55 年、開校百周年記念事業の一環として現在の本部棟・記念講堂が建設されることとなり、この旧本館は解体されました。なお、解体されるまで駒澤大学のシンボリックな建物として親しまれてきました。

この本館に掲げられていた釈尊のレリーフ 4 枚が、当館 1 階の常設展示室で展示されています。

【展示資料】

- No. 1 旧本館を模したオルゴール（昭和 33〈1958〉年／愛知県 森哲成氏蔵）
- No. 2 オルゴール販売の広告（昭和 43〈1961〉年／本学図書館蔵）
- No. 3 旧本館の内部
- No. 4 旧本館の外観写真(昭和 57〈1982〉年頃)

III 現在の 3 キャンパスと新しい仲間

現在の駒沢キャンパスには夕日にたたずむ赤レンガの禅文化歴史博物館をはじめ、さまざまな建物がある。

このほか、四季をいろどる庭園のある深沢キャンパス、多摩川の河川敷にある玉川キャンパスがある。

この 3 キャンパスと平成 16（2004）年にあらたに加わった建物を紹介します。

【展示資料】

- No. 1 駒沢キャンパスの建物
- No. 2 深沢キャンパスとその庭園
- No. 3 玉川キャンパス
- No. 4 駒澤大学会館 2 4 6
- No. 5 駒澤大学法科大学院塔